



Title	目で見るWHO 第90号 表紙・目次等
Author(s)	深田, 拓司
Citation	目で見るWHO. 2024, 90, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99616
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

目で見る WHO

2024 秋号

No.90



Visual Journal of Friends of WHO Japan



公益社団法人

日本WHO協会

CONTENTS

P1	ごあいさつ	深田 拓司
P2	セミナー・イベント報告	
	1. 研究シンポジウム	小笠原 理恵
	「移民がはぐくんできた歴史と文化から学びこれからの医療を考える」	
	2. 第14回母子手帳国際会議報告	小松 法子 中村 安秀
P10	NGO・団体紹介	
	公益社団法人アジア協会アジア友の会 (JAFS)	熱田 典子
P12	国際保健を学べる大学・大学院	
	1. 国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)	勝間 靖
	2. 北海道医療大学歯学部	三浦 宏子
P16	留學生日記	
	米国 エモリー大学で学ぶPublic Health	佐藤 哲郎
P18	WHO職員日記	
	今いる場所で一步步	嶋田 聡
P20	WHOニュース 5月／6月	林 正幸
		渡部 雄一
P24	世界献血者デー	紀野 修一
	「世界献血者デー」における日本赤十字社の取り組み	早坂 勤
P27	WHO Global Health Days (健康に関する国際的な記念日)	
P28	追悼：關 淳一さん	中村 安秀
P30	書籍紹介コーナー	戸田 登美子 島津 美寿季
P31	インターンシップ支援助成のご案内	
P32	世界保健デー 2024関連のイベントのご案内	
P34	日本WHO協会沿革／WHO憲章	
P36	WHOの地域事務局と加盟国	
P37	寄付者のご芳名／編集委員のページ／読者アンケート	村田 朱理
P38	入会案内	

ごあいさつ



日本WHO協会 理事
一般社団法人 大阪府歯科医師会 会長
深田 拓司（ふかた ひろつか）

我が国においては感染症法上の分類が5類になっておりますが、新型コロナウイルスをはじめ、各種の感染症により世界中で尊い命が奪われている現状に謹んでお悔やみとお見舞いを申し上げます。

世界的な紛争や屋内外の大気汚染により、多くの人々の健康に対する権利が脅かされている昨今、世界保健機関（WHO）が果たす役割は重大であります。WHOの活動や情報を迅速かつ適切に伝える使命を担っている日本WHO協会は、今まさにその真価が問われていると言えるのではないのでしょうか。歯科医師会としても健康の保持増進に対し、生活を支える歯科としてできる限りの協力を惜しみません。紛争がなく、多くの人が健康に天寿を全うできるような世界になることを願っております。

さて、2024年世界保健デーのテーマは「私の健康、私の権利」であり、あらゆる人が、あらゆる場所で、享受できる健康の権利擁護に取り組むと定められています。また、WHO憲章の前文では、「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」と定義されています。国民一人ひとりの病気にならない行動変容による健康の増進と、医療サービスの質の向上による健康寿命の延伸と

疾病重症化予防をめざして、我々も力を尽くしてまいります。

歯科界においては、生活習慣改善を目的とした情報提供や医歯薬連携による口腔健康管理が評価され、国の基本方針である「骨太方針」の中に歯科の文言が追加明記されるなど、歯科保健医療の重要性や口腔の健康と全身の健康の関連性についての国民の理解が徐々に広がっております。

日々の診療はもちろんのこと、夜間の突然の歯や顎の痛みに対応できるよう、大阪府歯科医師会は大阪府・市及び病院歯科、歯科衛生士会協力のもと、365日一日も休まず夜間緊急歯科診療を継続し、万博が開催される大阪で多言語に対応する緊急時の拠点として、歯科における安心・安全をめざした体制を整備しております。国民のニーズに応え、医療サービスと情報へのアクセスが適切になされるよう、引き続き医師会、薬剤師会等多職種連携を深めながら、これまで以上に努めてまいります。

最後に大阪府歯科医師会は国民の口腔健康管理を通じて健康長寿の実現に貢献すると同時に、日本WHO協会と緊密に連携・協力することで世界の人々の「健康」を守ることに寄与できるよう取り組んでまいります。今後の日本WHO協会のますますの活躍を祈念しご挨拶いたします。

2024年10月